

13回運営推進会議 議事録

令和 5 年 3 月 30 日

事業所名	デイサービスセンター「笑くぼ」			
開催日時	令和5年3月30日（木）15時00分～16時00分			
開催場所	デイサービスセンター「笑くぼ」2階会議室			
参加者	利用者	0名	知見を有する者	1名
	利用者家族	0名	地域包括支援センター	1名
	地域住民の代表	1名	事業所職員	1名
議題	1 防災訓練・災害時対応について			
	2 送迎の保険などについて			
	3 感染症について			
	4			
会議録				

運営状況

○利用者状況

利用者定員17名。利用者人数23名(男性4名、女性19名)。

事業対象者;1名/要支援1;1名/要支援2;1名

要介護1;3名/要介護2;8名/要介護3;5名/要介護4;2名/要介護5;1名

○行事

・クリスマス、お正月、ひな祭り、節分、花見

クリスマスでは過去一年の作成物をまとめ各利用者にプレゼントしました。また、ケーキを準備させていただき提供しました。

お正月やひな祭りなどの行事の際は季節に合わせた料理を提供させていただきました。

外食レクはコロナ感染のリスクを検討し行いませんでした。代わりに、お持ち帰りでのお弁当を都度行いました。

おやつ提供も季節に合わせて行いました。その際出来る限り手作りの物を提供できるように配慮しました。

(揚げ饅頭・焼き、揚げ菓子・お汁粉・甘酒・簡易ケーキ・大学芋など)

○行事以外の活動

・「子ども110番の家」の継続依頼がありました。引き続き地域への貢献をさせていただきます。

・自治会よりお花の提供を頂き、道路面の敷地に植えさせていただきました。

○ヒヤリハット・事故報告

・大きな事故につながる事例はありませんでした。事故やヒヤリハットが発生したときは、関係者に速やかに報告し、その日中に職員間にて原因・対策方法を話し合い、再発防止に努めていきます。

○運営委員会からの評価

《利用者・家族》

・いつも親切、丁寧に接して頂き感謝しています。本人も日々喜んでデイの日を楽しみに気持ちが弾んでいるようです。

コロナの脅威に怯えながら心配しましたがようやく収束に向かっているようで職員の皆様の安全管理にはとても感謝しています。これからもよろしくお願いいたします。

《民生委員》

・災害(水害)についてここ数十年浸水の被害は出ていない。笑くぼの避難場所は現在自治会になっているが水害の場合笑くぼの立地より自治会の立地の方が水位が大きい、その為災害によって避難場所の見極めが大事になってくるのでは。

2Fへの避難を行う場合、車いすの方は担ぐのでしょうか？その訓練は行っていますか？

また、雪や台風の場合の帰宅のボーダーをきめていますか？送った後のフォローをどう行っていくか大事になりそうですよね。

送迎の道順や送った後の自宅も冠水していたら難しいですね…その場合の避難場所の開放の手順も検討してほしい。

・自治会では年に一度旅行に行くがデイでの送迎の保険はどういうのを使っていますか？

現在自治会では運転手個人の保険を使っているが良い方法がありますか？

《知見を有するもの》

水害についてなのですがバイパス20号は過去浸水をしたことが有りますか。また5月から5類への引き下げに伴いデイが行う感染症対策を変更をすることが有りますか。

《包括》

デイは緊急時には地域のかたの避難場所になる事が出来る。過去にはあかしにショートの利用者や近隣の人が避難した事がある。利用者の家や周辺状況を常にハザードマップなどで確認しCMと情報共有をして欲しい。

上記に避難のボーダーとあるが詳細に決めていた方が各自で動くことが出来るのではないかな。

最近、運営は対面にて行われていることが多くなってきた、だからこそその感染症対策のマニュアルの作成を行ってほしい。

保険は送迎サービスなどのボランティアが使用できる。一日保険などの民間もあるため検討してみしてほしい(民生委員宛で)

【笑くぼの回答】

避難場所として検討しているのが垂直避難の2階か駐車場への一時避難です。自治会への避難を行ったとしても利用者の身体状況・認知精神状況として落ち着いて避難をするのが難しいことが考えられます。避難訓練は定期的に行っていますが車いすの利用者本人と一緒に垂直を行うには危険があるため現状では行えていません。移動可能な利用者は一緒に避難をしてもらっています。代わりに職員を担ぐなどの訓練は今後行っていきます。災害時、雨量や降雪などはボーダーを決めやすくデイ利用中ならば周囲との相談も行いやすいことから避難はしやすい、一番は地震の危険性だと思われます。地震が収まり家への送迎を行っても自宅の状況が不明なまま利用者をおいていくことが難しくなっていくと思われます。また、デイ営業中の災害ではなく早朝やデイ後の災害時にどのような対処を行うのが重要になってくると考えられます。

また、感染症対策については5月以降も継続して行っていきます。コロナは減少傾向にあってもなくなったわけではなく、インフルエンザの様に特效薬があるわけでもない。なので体力・抵抗面で弱い利用者(高齢者)を守るために今まで通りの対策を行っていく様にします。

○今後の課題

・災害に合わせた避難訓練を行っていく。その際、垂直避難の方法の再確認をしていく。また、避難時における役割分担を明確に出来るように表の作成を行っていく。

・利用者の自宅周辺や道中に対し浸水や倒壊の危険性がある場所をピックアップしておくことで有事の際の送迎時を安全に行うことが出来ると考えます。

また、有事の際デイを避難場所として開放する為の準備・方法を検討し利用者だけでなく地区の方への開放も視野に入れ検討をしていく。

・感染症に対し対策の徹底を行っていきます。消毒はもちろん利用者の体調や日々の様子を観察しいち早く変化に気が付けるように職員一同連携をとっていきます。

・レクリエーションのバリエーションを増やし、外出の機会を持っていく。